

有限会社 菊池製作所 代表取締役 波場 将人 氏



水戸市に本社を置く有限会社菊池製作所は、1958年にネジ工場として創業後、「総合金属加工」を強みに事業を拡大してきました。現在では、自動省力設備やマテハン設備、医療機械部品、新エネルギー関連、建築部品など、多種多様な業界からの依頼に応えています。

また、2018年12月、同社は初の自社製品となる垂直搬送機CHAIN WAITER®を発表しました。自由度が高いことが特徴で、運搬重量なども必要に応じてカスタマイズできるため、利用方法も無限の可能性を秘めています。

さらに、製造業界の将来を見据え、中国での海外事業も展開しています。何層にも重なる「総合力」で挑み続ける同社取材しました。

インタビュー日：2019年3月20日
〔聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一〕
〔文・写真：筑波総研(株) 研究員 富山かなえ〕

企業概要

本 社：茨城県水戸市酒門町4478-1

創 業：1958年

事業内容：総合金属加工業

(設計、板金、溶接、機械加工、組立、海外調達)

従業員数：53名

御社の沿革や事業概要、御社の強みなどについてお聞かせください。

■ ネジ製造で創業後、幅広い金属加工を展開

当社の歴史は、1958年4月、私の母方の祖父・菊池高信が水戸市内でネジ工場を設立したことに始まります。創業時の主な事業は、日立電線木工株式会社（当時）向けの本製締め付けボルトや造船に使用する釘の製造でした。

当時の工場は、水戸市三の丸の水府橋近くにありました。祖父は出来上がった製品をリアカーに乗せて、日立市まで納品に行っていたと聞いています。

その後、ボルト製造だけでは今後の事業拡大に限界があると感じ、1970年、市内の別の場所に簡易な工場を建設しました。この時、初めて半自動溶接機を購入し、農機具などの部品製造など新事業を展開していきました。



加工した製品を説明する熟練職人

■ 創業60年、金属加工なら全てお任せ

1983年、当社は三の丸から吉沢に工場を移転しました。この頃より2代目となる父・波場春廣が「総合的なものづくり」を目標に加工種類を増やす試みが始まります。

プレスやマシニングセンタ、NC旋盤、板金設備などを次々に導入するほか、設計部の立ち上げにより、「設計から製作・試作から量産まで」という当社の基本姿勢が定まっていきました。

2018年、当社は創立60周年を迎えました。「老舗企業にしては、軸となる事業が見えづらい」と思われるかもしれません。しかし、言い換えれば、「金属加工なら何でもできる」ということであり、これこそが、当社の強みなのです。

■ 職人の多能工化で豊富な技術力を実現

当社は、設計・開発（機械・建築設計、解析など）をはじめ、板金（薄板～厚板、3次元プラズマ切断、プレス加工など）、溶接（TIG・MIG・MAG溶接、装飾溶接、ロボット溶接など）、機械加工（丸物・角物・大型加工、放電加工、3次元切削加工など）、組立（FA装置などの組立）など、あらゆる加工ニーズに自社内で完全対応することが可能です。

一般的な中小の工場では加工種類毎に1社1事業に分業することが多いのですが、当社は、長年培ってきた何層にも重なる「総合力」と「職人の多能工化」によって社内一貫生産を実現しました。

また、日本の製造業に属する中小企業の多くは、同一大手メーカーの量産品などを下請けして事業を成り立たせています。一方、当社は、食品・医療・新エネルギー・建築業界など、多種多様なお客さま、常に100社ほどの依頼に対応しています。

実績例は、原子力関連の部品・装置をはじめ、JR勝田駅前に設置された「ROCK」モニュメントなど多岐にわたります。当社会議室の大きな机やサッシなども当社が設計・開発しました（表紙写真）。

■ 社会が求める「提案」に、総合力で対応

現在、日本の工業界では、メーカーが中小企業に製造パッケージを一括発注するなど、総合化を求める傾向があります。そこで、一般的な工場は、何社かと提携して“総合”商社のような形を取り始めています。

一方、当社の「総合金属加工」は、社内一貫生産による、コスト・納期・品質の一元管理は勿論、総合的な知見から生まれる「提案」を得意としています。当社は、多様な角度から画期的な提案をすることで、お客さまの信頼を獲得しています。



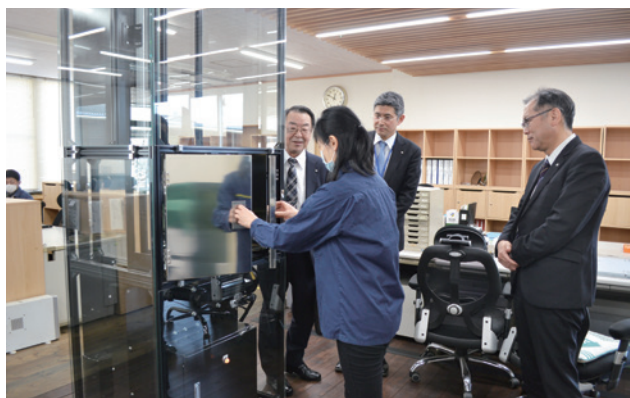
5面加工機（OKUMA MCR-A5C）を操作する若手職人

御社が開発した自社製品 CHAIN WAITER® シリーズについてお聞かせください。

■ 自由度の高いスタイリッシュな垂直搬送機

2018年12月、当社は初の自社製品となる垂直搬送機CHAIN WAITER®「S」を発表しました。同製品には、株式会社椿本チエイン様（本社：大阪市）の「ジップチェーンリフタ」を組み込んでいます。

ジップチェーンリフタは、2本のチェーンがジッパーのように噛み合い1本の柱状になる仕組みで、油圧リフタに比べ3～10倍の昇降速度を誇り、昇降テストも100万回以上クリアしています。



CHAIN WAITER®「S」の操作方法を説明する女性従業員

CHAIN WAITER®「S」は、飲食店などが上層階への料理運搬機として使用する「ダムウェイター」と比較すると、自由度が高いことが特徴です。本体ユニットは置くだけ（仮設・常設どちらも可）、移設や撤去も簡単で、建築復帰も容易です。標準施工時間は2人で4時間程度、メンテナンスも簡単です。

また、外装の素材や幅、高さのカスタマイズも自由で、スイッチなど細部にも1つ1つこだわり抜き、スタイリッシュな製品に仕上げました。

■ 世界初の製品で、大手企業からも熱い視線

今年4月に発表予定のテレスコピック型垂直搬送機CHAIN WAITER®「T」は、アルミ製の筒が上下に伸縮するテレスコピックガイドを専用に設計しています。現在、同形状の機構は油圧しか無いため、電気制御としては世界初となります。

運搬重量も必要に応じてカスタマイズできるため、利用方法も無限の可能性を秘めています。現在、大手商業施設からの引き合いもあり、従業員一同、今後の展開をととても楽しみにしています。



スタイリッシュなCHAIN WAITER®「S」内部の様子

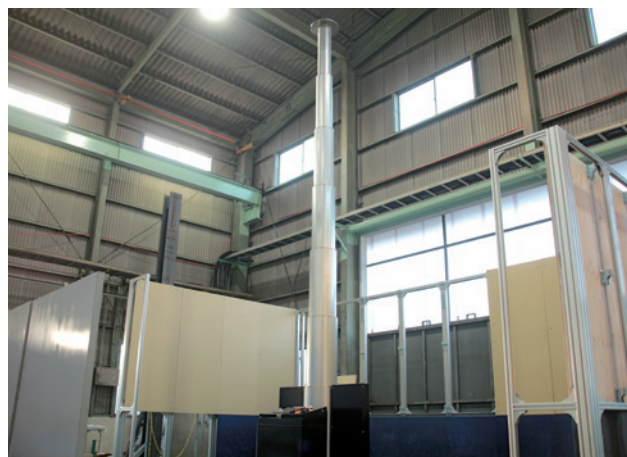
■ 医療・介護業界に革新をもたらす新作「Z」

CHAIN WAITER®は、構想から設計、試作、完成、展示会での発表まで約1年間を要しました。しかし、他社から見ると、これは驚異的なスピードだと思います。それを可能にしたのは、長年培ってきた当社のアイディア力と総金属加工です。

2018年12月、「施設リノベーションEXPO」でCHAIN WAITER®「S」を発表した際、多くの反響があり、大きな手応えを感じました。

今年4月には、当社の100%子会社となる株式会社CHAIN WAITERを設立します。今後も、プロダクトデザインのパートナー企業である建築設計事務所・有限会社すわ製作所（本社：世田谷区）などと連携し、積極的に営業活動を展開したいと考えています。

また、今年12月には医療・介護業界向けのCHAIN WAITER®シリーズの新作「Z」を発表予定です。完成すれば、同業界に大きな革新をもたらすことができるのではないかと期待しています。



テレスコピック型のCHAIN WAITER®「T」
（画像提供：有限会社菊池製作所）

中国での事業展開、製造業界の展望、セルフブランディング戦略についてお聞かせください。

■ 製造業界の将来を見据え、海外事業を展開

当社は約15年前から、父が中国の企業で現地作業員への技術指導などを始め、私の代からは中国での部品調達などを積極的に進めて来ました。当社規模の工場で商社機能も有することは大変珍しく、ここでも他社との差を広げています。

中国での事業は、「即決力」が重要です。「日本に持ち帰ってから検討します」では、国際社会のスピードに追い付いていきません。

今後は、中国に進出する日系メーカーとの取引が始まることに加え、CHAIN WAITER®の幅広い展開を見据え、今年5月に「菊池（大連）自動設備有限公司」という子会社を中国に創設します。

開発・設計・販売を中心に、商社では真似の出来ない技術を武器とした新たなサービスを提供していきたいと思っています。

今後10年で日本の製造業を支える技術者は激減し、業界は大きな変化に揺れることでしょう。しかし、当社は海外展開を含め、自社の培った技術やノウハウを多方面に供給しながら、常に高品質で安定した製品提供をしたいと考えています。

■ 確かな技術こそ、菊池製作所のブランド

当社には、大小合わせ約60台の金属加工機械が揃っています。多種多様な設備が一社で見られると言うこともあり、最近では大手メーカー様の新人研修の見学コースに採用して頂きました。

私は、これらの多種多様な設備とお客さまの幅広い業界、製造してきた製品の種類、これこそ「総合金属加工」であり「菊池製作所のブランド」であると考えています。

私が代表者として声高らかに語る姿ではなく、工場で地道に黙々と働く従業員姿、そして、高い技術力で創造された確かな製品を前面にアピールする、これが当社のブランディング戦略です。

また、当社のパンフレットには過去に製作した製品や設備の詳細はあえて載せません。それは、この設備や当社の取り組みを見て頂いた上で、「新たな創造をしたい」と思うお客さまと、お取引させていただきたいと考えているからです。



5軸加工機を説明する技術者

従業員への想い、理想の会社像、今後の事業戦略などについてお聞かせください。

■ 「稼げて休める企業」を継続できる経営を

私が当社の社長に就任して10年が経ちましたが、最初の仕事は能力査定制度の見直しと、賃金体系の改善でした。会社の望む技術目標と、働く人たちの課題を合致させて、公平な評価を行うことにより、従業員のモチベーションの維持・向上につなげたいと思いました。

「寝ないでやるのが当たり前」の父の時代と比較すると、実際に現場で働いてきた私の目線でも、驚くほど改善したと思います。この「稼げて休める」状況を長く続けるためには、従業員の技術力と提案力を向上させる自己研鑽の機会が不可欠です。

そのため、当社では資格取得に向けた資金の全額援助をはじめ、個人目標について半期に1度、従業員と面接を行い、目標を明確化した上で賞与の査定としています。

今後も、さらに給料や休暇の増加を目指して「働き方改革」を進めると同時に、仕事に付加価値を付けて、さらなる強い経営を進めていきたいと考えています。

■ 世界の想像を超える新たな製品開発に注力

今後も当社が培ってきた確かな「総合金属加工」の力で、お客さまにご満足いただける製品を製作すると同時に、時代を見据えた海外事業展開、そして、CHAIN WAITER®のように、自由な発想を持った自社製品の開発にまい進して参ります。

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。